

<b>Title</b>	家でもない、教室でもない
<b>Author(s)</b>	佐々木, 麻耶
<b>Citation</b>	ぱびるす : 聖学院大学図書館報 / 聖学院大学総合図書館, 第 60 号, 2015
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5373">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5373</a>
<b>Rights</b>	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 家でもない、 教室でもない



114A017 佐々木 麻耶

中学校に通っていた頃のある朝のことである。キーンカーンカーンとけたたましく鐘が鳴ると、掃除から帰ってきた人が引き出しから本を取り出し、続々と読みふけていった。彼らは勤勉にも、授業が始まる前のわずかな時間を惜しんで本を読んでいるのであろうか。いいや。なんてことはない。私の中学校では読書活動の時間が設定されていたのである。1日のうち朝の15分間だけ教室に静寂が訪れたものだった。

興味や関心の方向がまったく違う人々が、同じ空間で同じ時を共有しながらも、てんでばらばらな内容の本を読んでいたのである。よくよく考えれば、当たり前のように何とも不可思議な時間であった。

そんな私であるから、大学生になってこの大学の図書館を初めて訪れた時の驚きは禁じえない。まず、図書館を外からのぞいたときに見えたものは、数えきれないほどの本…ではなくてパソコンであったのだ。はじめのうちはこんなにたくさんのパソコン、いったい何の必要があるのだろうかと思ったものだが、なるほど学期末などレポートの提出期限が差し迫ってくると、むしろ足りなくなってしまいうくらい需要があるらしい。

大学の図書館には本当にたくさんの人々が様々な目的でやってくる。本を読む人やレポートの文献を探しに来る人だけでなく、新聞の一面をチェックしに来る人もいれば、レポートの作成に来る人もいる。さらには、DVD鑑賞や、ネットサーフィンを目的として訪れる人もいるのである。たくさんの人と同じ場所にいるのに独りで、それも独りで部屋にいる時とはまた少し様子の違う独りなのだ。私にとって図書館で過ごす時間は、友達と話す授業の前後や学食で過ごす時間と、部屋にこもって独りで過ごす時間のちょうど中間に位置する。独りでいるのにピリッと気が引き締まる、そんな場所なのだ。

(欧米文化学科1年)